

# 原子力施設周辺における環境

前号では「茨城県東海地区環境放射線監視委員会」の組織など歴史も踏まえて紹介しました。今回は、委員会の下部組織で放射線の測定結果を検討評価し、委員会へ報告する評価部会の住民代表専門員の方々に評価にあたってのお考えなどを伺ってみました。

## 評価部会の役割と構成

評価部会は、県、国、原子力関係事業所から報告される放射線の測定結果を3ヵ月ごとに年4回、検討評価し、その結果を監視委員会へ報告する役割があります。21名の専門員で構成され、部会長は環境放射線の監視をしている県環境監視センター長が就任しています。

### ○評価項目

- ・3ヵ月ごとの評価項目：空間放射線量、大気中の放射能、原子力施設の排気・排水の放射能
- ・半年ごとの評価項目：サーベイ、積算線量、陸土・海底土などの放射能など
- ・1年ごとの評価項目：大気、飲食物からの被ばく線量、原子力施設の排気・排水による被ばく線量

### ○専門員

- ・住民代表 11名  
東海村2名、大洗町2名、那珂市、ひたちなか市、水戸市、日立市、常陸太田市、茨城町、鉾田市
- ・学職経験者 5名  
放射能分析、放射線防護、海洋放射能、気象などの専門家
- ・県職員 5名



評価部会の様子

## 〈住民代表専門員からのコメント〉

住民代表専門員の測定結果の検討評価にあたってのお考えなどを伺ってみました。



東海村住民代表  
三坂 侃さん

私の名「つよし」は、有名な熟語「侃々諤々」の「侃」。明治25年生まれのお父が、厚い辞書を繰って付けてくれたもの。正しいと思ったら体当たりでぶつかりたい性格はこの名前に導かれてのことだろうか。この度任命した任務は、監視委員会の活動が専門的且つ民主的に行われていることを住民の視点で確認させて頂くものだが、世間知らずも加わり、就任早々伝統的了解事項に異を挟むようなことをしてしまった。「盲蛇を怯えず」的に。



大洗町住民代表  
佐藤 博美さん

この春、放射線監視委員会評価部会専門員を二年の任期でお引き受けしました。私は以前、原子力関連の仕事に従事しておりました。そして、この度、縁あって十数年ぶりに原子力関係に再び携わることになりました。仕事として行っていた時は監視される側でありましたが、これからは監視する側として、立場こそ違いますが、原子力施設近隣に住む一住民としての視点で、原子力を今まで以上に身近なものとしてとらえ活動していきたいと思っています。



那珂市住民代表  
中庭 一雄さん

評価部会の専門員を任命してから20年にもなる。その間、3つの大きな事故があった。チェルノブイリ原発事故、動燃アスファルト固化施設火災・爆発事故、JCO臨界事故である。評価部会は県から提出された監視結果に基づき、定期的に検討、協議を重ね評価をしているが、上記のような事故発生時には、その原因究明と再発防止の為、県及び事業所代表者から具体的に話を聞き、地域との携わりについて一層の責任を求め、地域住民の安全確保最優先を強調しながら評価の任に当たっております。



日立市住民代表  
小山 高一さん

東海・大洗地区を中心として数多くの原子力施設を有する茨城県にとっては、住民の安全と健康を守るとともに、健全なる原子力開発の進展をはかるためにも、環境放射線監視の評価とその結果公開は大変重要な事業であるとの認識を強く持っている。そしてその監視の評価結果を監視委員会へ報告する役目を担う評価部会専門員の一人として、自分の技術的な経験を生かしながら住民代表としての視点から、放射線監視の結果を評価していきたいと考えている。

# 放射線の監視結果 (平成17年10月~12月)

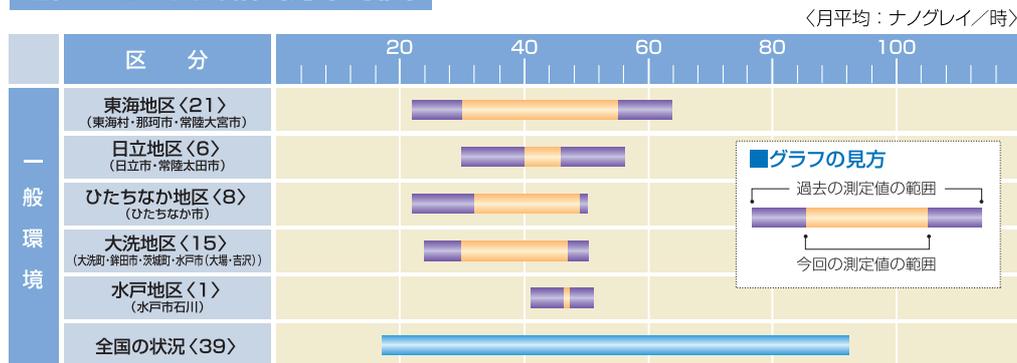
## 監視委員会の評価

平成17年度第4回茨城県東海地区環境放射線監視委員会（委員長：角田副知事、平成18年3月29日開催）の評価の結果、環境中の放射線や放射能の異常は認められませんでした。また原子力施設からの排気・排水中の放射能も異常は認められませんでした。

## 空間放射線量

平成17年10月から12月までの3カ月間、毎日24時間連続測定された空間の放射線量（ガンマ線）は、過去に測定された値と比較して同程度であり、**異常は認められませんでした**。測定値が場所により異なるのは、測定局が設置されている場所の違い（土壌、コンクリートなどの建物や道路の状況など）によるものです。コンクリートなどには、もともと天然の放射性物質が含まれているので、その近くでは放射線量はわずかに高くなります。

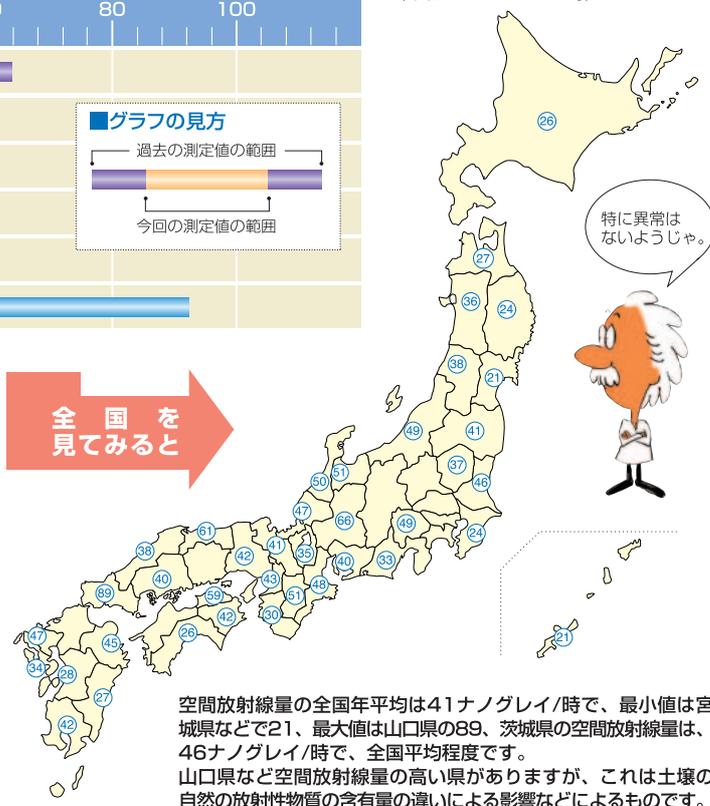
## 地区ごとの変動幅（月平均値）



※くゝの数は測定局数

## 全国の場合（年平均値）

〈単位：ナノグレイ/時〉



全国の場合：39道府県の環境公害研究所等に設置された放射線測定局における平成16年度の月平均値は17～92ナノグレイ/時でした。（平成16年度環境放射線データベース（文部科学省）による）

## 質問コーナー

Q

なぜ、雨が降ると空間放射線量が増えるのですか。  
(小美玉市 23歳 女性 他)

A

大気中にある放射線を出す自然放射性物質（ラドンやラドンが変化した物質）が、雨に洗い流されて落下し、地表面に集まるため、地表面の空間放射線量が上昇するもので、降雨時には原子力施設がないところでも観測されている自然現象です。  
これらの物質が放射線を出す期間は短く、雨が止んでから概ね1時間以内に線量は降雨前の状態に戻ります。

ご質問は、メール ([kansi\\_asu@pref.ibaraki.lg.jp](mailto:kansi_asu@pref.ibaraki.lg.jp))、はがき（8ページの応募方法のあて先参照）でお寄せください。

## 周辺環境における放射能

周辺地域で生産された牛乳や空気中のちりに含まれる放射能を測定しましたが、**異常は認められませんでした**。

## 原子力施設からの排気・排水中の放射能

原子力施設から排出される排気・排水中の放射能を測定した結果、過去に測定された範囲内または法律で定められている基準値以下で**異常は認められませんでした**。

※詳細については **茨城県原子力安全対策課** までお問い合わせください。TEL.029-301-2922

最新の空間の放射線量（ガンマ線）の測定値は、インターネットでご覧になれます。  
<http://www.houshasen-pref.ibaraki.jp>